

事業実施報告

開催日	令和7年5月17日（土）～5月18日（日）		
事業名	テンパーク・ボランティア養成事業		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	36名（大学生33名、高校生3名）
対象	青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生、社会人等		
関係機関名	滝沢消防署滝沢北出張所		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

ボランティア活動に興味・関心をもつ高校生・大学生・社会人が、講義・演習・説明を通してボランティア活動の基本を学ぶことを目的とし、国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿った事業内容で実施した。

「安全管理」では、滝沢消防署滝沢北出張所の職員2名による指導の下、緊急時の対応や心肺蘇生法の演習をした。「ボランティア活動の意義」では、昨年度に引き続き東北学院大学の渡邊圭氏を招聘した。事前に法人ボランティアを交えたオンラインミーティングで講義内容を検討したうえで、当日はボランティア活動の目的や意義についての講義や子供向けプログラムを考えるグループワークを行った。「ボランティア活動の技術」では、野外炊事の演習を通して、野外活動を行うための技術・知識を学び、安全管理のポイントを意識させるようにした。「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、法人ボランティア制度の仕組みや今後ボランティアの募集を予定している事業について説明した。また、法人ボランティアによるアイスブレイクや職員によるアドベンチャープログラムを通して、今後活動する上でのボランティア同士の関係作りを行った。「青少年教育」では、子どもの頃の体験活動の重要性等について、様々なデータや資料をもとに講義を行った。「青少年教育施設の現状と運営」では、社会教育施設としての役割や国立青少年教育振興機構として全国の施設とのつながり等について説明した。

【成果】

事業実施後の参加者アンケートでは、事業全体に関する満足度について、97%の参加者から「満足」「やや満足」の評価を得ることができた。参加者からは、「班の人達とも仲を深めつつ、協力して野外炊事やグループワークをし、講義などでもボランティアに対する考え方や意義を知ることができて良かった」「救命実習などボランティア外でも使うことがあることを学べたことは非常に有意義に感じた」「ボランティアに初めて参加して、仲間との交友を深めたり、ボランティアの良さを知ることができた。子どもとの関わり方を学び、これから教員を目指す自分にとっても、役立つ内容だった」等の感想が得られた。

今回の参加者の中から、今後のブラッシュアップ研修にも参加したいという意識の高いメンバーも数名出ており、一定の成果があったと考える。スタッフとして参加した法人ボランティアのアンケートからも、自分たちのアイスブレイクや参加者との関わり方についての学びがあったことが読み取れた。

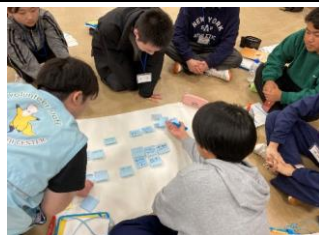
【課題】

- ・参加している学生の講義や演習に臨む姿勢に差が見られた。社会教育活動実習として参加する学生には、事前ガイダンスで事業の趣旨や内容を説明しているが、より丁寧に伝えていく工夫が必要である。
- ・「安全管理」の講義・演習は必ずしも救命講習でなくともよく、施設の活動プログラム（ショコラオリエンテーリング等）を体験しながら、危険個所チェックや安全対策を考えることも有意義である。次年度検討する。

状況写真



救命講習



グループワーク



野外炊事の演習



青少年教育についての講義



アドベンチャー・プログラム



法人ボランティアについての説明